

成田市自然観察会

坂田ヶ池公園で生き物探し Part2

内島くに子（佐倉市）

日 時：2023年7月26（水）9:30～11:30

場 所：坂田ヶ池総合公園（成田市）

参加者：26名（大人12名、子ども14名）

担当指導員：伊藤、井上、小川、内島、藤田

当日は最高気温 36℃以上と予想され、前日に野外活動の短縮を決定した。来年も実施する場合、開始時刻を1時間早めることを成田市の担当者に提案した。

心配をよそにこの日を楽しみに駆けつけてくれた親子たち、3班に分かれフィールドでの虫捕りから開始。大きな岩の間を小川が流れており、その周囲は野原になっている。虫はもちろんのこと川の生物にも会える。バッタ、カマキリ、クビキリギス、イナゴ、カナヘビ、セミ、ヌマガエル、サワガニ、ナガコガネグモ等。飼育箱持参の子どもも何人かおり、虫捕り用のカップを渡すと皆虫捕りに夢中になり、カップのおかわりが続いた。

セミの抜け殻に興味を持った親子には抜け殻の写真を見てもらい、自分たちが見つけた抜け殻はミンミンゼミだと分かり喜んでいた。

次の活動地点の林に到着すると、ひとりの男の子がいきなり大きなカブトムシを発見し、子どもたちは大喜び。まずは 保護色ゲームを開始：赤・緑の色を塗った爪楊枝と塗ってない爪楊枝の3種類を草原に撒き、子どもたちに拾ってもらうゲーム。虫は敵から逃げるために環境に合わせた色をしているということを実感してもらった。カブトムシに関しては、部屋に入った後 子どもたちに掴んでもらいその力強さを体感してもらった。

（カブトムシは幼虫でもずっしりと重い）

ゲームの後は室内でまとめの時間。暑い中よく頑張りましたと熱中症対策の清涼菓子が配られほっと一休みの後、生態系ピラミッドの表に何が始まるのだろうと皆が集まり始めた。生態系ピラミッドとは、大きい虫は小さい虫を餌にして生きている、つまり食物連鎖を表にしたものである。それを分かった上で、虫が入ったカップを表のあちらこちらに置き始めた。表が完成したところで、それぞれの虫の生態を説明する。虫の口は、何を食べるかによって違う。噛み砕いて食べる虫は顎が発達している、樹液を吸う虫はストローのような口。実際の虫では観察しづらいので、虫の顔を拡大した写真を見もらうと、なるほどと納得の空気が流れる。ヌマガエルは九州にいたものが千葉で多く見かけるようになった「それって日本での外来種？」と子どもから声が上がった。ナガコガネグモがイナゴを、ヘビがカエルを食べる写真には皆息を呑む。生き物の生きていくための必死さが伝わってくる。

最後は虫クイズ。知っていることも、知らなかったこともそれぞれに楽しんでもらった。保護者からは、「普段子どもと虫捕りをしていても何の虫かしらで終わってしまう。今日は虫捕りの最中にいろいろ教えてもらったので、楽しく勉強になった」という感想があった。保護者の方々が子どもの成長を喜びとしていることが感じられ、親子の関係はまだまだ捨てたものではないと安堵できた一日でもあった。

